

茶道が教えてくれた心

鳥取大学医学部四年（鳥取県）

島津 結衣

「豊かな心で人々に交わり、世の中が明るく暮らせるように」。鳥取大学医学部茶道部では、お稽古の終わりに「ことば」を唱えます。私は茶道部の部長になってから、この「ことば」を唱えるたびに「今日のお稽古では、先生方や部員たちと豊かな心で交わることが出来たのだろうか」と省みるようになりました。その一方で、「豊かな心で交わるとはいったいどのようなことなのだろうか」という疑問も浮かんできました。

この問いに対する私なりの答えを見つけるきっかけになった二つのお茶会があります。この二つのお茶会のエピソードを紹介しようと思います。

一つ目は春臨茶会です。春臨茶会とは卒業する先輩方の門出を祝うお茶会です。私は亭主を務め、私が入部した時に部長だった先輩を正客として、その頃からお世話になった先輩方、顧問の先生、お稽古の先生方がお客様でした。

私は初めての亭主だったので、お菓子を運び終え本席の開始を茶道口で待っている間、お点前を間違えないか、と緊張していました。しかし、襖を開けた瞬間、今日集まってくれた卒業生と先生方、半東、私でするお茶会はもう二度とは無いんだ、と気づかされました。心を込めてお茶を差し上げ、お客様には楽しい時間を過ごしてもらいたい、という思いが自然と沸き上がり、その思いを胸に「お薄を一服差し上げます」。

と私は言いました。心を込めることに集中してお点前をしていると、自然と緊張感は無くなり、一つ一つの動作を丁寧に行えるほど、ゆったりとした気持ちになりました。そこのおかげで、心を込めてお茶を点てることができ、誠意を尽くしておもてなしをするということの理解と実践ができました。

二つ目は全国学生大リレー茶会です。これは全国各地の大学の茶道部が参加し、茶道具をバトンとして金沢から全国各地の大学へリレーでつなぐというものです。茶道具を受け取った大学はそれらを使ってお茶会をしている様子、ご当地のお菓子やお花などを撮影してSNSに投稿します。十二月下旬、私たちは棗をバトンとして受け取りお茶会をしました。私は棗を拝見して個性的なデザインと綺麗な螺鈿に心を奪われ、どのような思いでこの棗を作ってくれたのだろうか、と思いを馳せると同時に、二度とこの棗

に出会えないのだろうと感じ、大リレー茶会に参加してこの棗に出会えたことを嬉しく思いました。また、私たちはSNSを見てくれた人に季節を楽しみながら山陰の茶道文化を知ってもらいたい、という想いを込め、部員が主体となりクリスマス風のお花と山陰銘菓を準備しました。私はお茶会を準備している時、他大学の学生とのつながりを感じる事ができるのでは、と期待していました。ところが、いざ開催してみると、そのつながりを感じる事ができず、寂しく感じました。しかし、お茶会終了後、寄せ書きを見つけて安心感と達成感が湧いたことが印象に残っています。寄せ書きには「大リレー茶会に参加して良かった」「実際に会いたい」などと書かれており、各大学の学生の想いが伝わってきて、心の温もりを感じました。そして、部員と協力して準備をして良かったと感じ、心が満たされました。私はこのお茶会を通して、相手に想いを馳せてお茶会を準備することの楽しさと人やお道具との出会いは一期一会であるという二点を実感できました。

これら二つのお茶会を通じて、豊かな心で人々に交わるという事は、身の回りで起きるすべてのことを一期一会と捉え、その時できる最大限の思いやりと、ゆとりある丁寧な心で相手に向き合うことだと私は思います。そして、豊かな心で交わることで、自分と相手との間に心の温もりを生み出すことができます。

現在、私は医師になるために大学で勉強しています。先日、外来診察を見学する機会がありました。私は外来診察も茶道に似ている部分があると感じます。例えば、患者さんと医師との間にはものを置かないようにします。これは患者さんに心の距離を感じさせない工夫です。また、患者さんが話している時はカルテを記入する手を止め、患者さんのペースに合わせて話を聴いていた医師もいました。これは患者さんとの信頼関係を築く上で重要なことです。

診察と茶道では、向き合う相手や緊迫度が異なりますが、相手のことを思って診察室（茶室）を準備することと、ゆとりある丁寧な心持ちで向き合うことの二点を大切にすることを考えは、共通して言えると思います。このような心持ちや態度は医師になる上で非常に大切だと私は感じ、茶道を通じて理解を深める事ができて非常に嬉しく思います。

茶道は人々との交わりの中で、善く生きるための考えや心構えを教えてください。コロナの影響で、以前に比べ茶道に触れられる機会が減りました。このような状況ですが、茶道を通じた出会いや学びへの感謝を胸に刻み、毎回のお稽古に励み、豊かな心を育んでいこうと思います。